

災害安全に関する意識調査 集計結果

令和4年7月6日(水)

校内研究部

・実施期間 令和4年6月20日～6月30日

(1) 児童の集計結果 (全 302 枚)

No	質問事項	1年生 (56)	2年生 (50)	3年生 (50)	4年生 (47)	5年生 (49)	6年生 (50)	割合 (%)
	先生の話聞く (はい)	53						95
	黙って並ぶ (はい)	48						86
	「お・か・し・も」を知っている (はい)	31						55
1	お・か・し・も (正答)	10	25	28	38	40	42	61
2	空間 (正答)		0	0	0	6	8	6
3	ダンゴムシ (正答)		22	10	18	35	23	44
4	避難所 (ある)	22	11	19	28	33	43	52
5	相談・約束 (ある)	30	6	23	15	17	23	38
6	非常食・水 (ある)	36	14	24	19	26	26	48
7	マイタイムライン (ある)		4	0	2	3	4	5
8	避難経験 (ある)		17	14	16	16	21	34
9	避難所でできること (ある)		6	12	13	20	31	33
10	避難訓練 (必要)		39	40	47	48	49	91
11	地震や風水害に対する安全について (ある)		15	15	26	39	40	55
12	友達と話し合う・考える (ある)		9	13	10	21	29	33
13	地域の避難訓練参加 (ある)		6	1	5	8	9	12

* () 内は回答枚数

(2) 教職員アンケート集計結果 (15 枚)

No	質問事項	人数	%	No	質問事項	人数	%
1	「お・か・し・も」(正答)	14	93	5	非常食・水 (ある)	10	67
2	空間 (正答)	7	47	6	「マイタイムライン」の作成 (ある)	1	7
3	避難所 (分かる)	14	93	7	避難経験 (ある)	1	7
4	相談・約束 (している)	9	60	* 小数点以下四捨五入			

* 1と2の正解は、「安全教育プログラム」p15で確認し、指導しましょう。

(3) 記述内容

① 「避難所でできることがある」「避難訓練は必要だと思う」という児童の記述

9	避難所でできること * 学年が上がるにしたがって、できる内容が増えている、広がっている。	(2年生) ・水運び ・子供の面倒 ・手で頭を守る。 ・命を守ること ・みんなが怖がらないように励ます。 (中学年) ・食べ物を配る。 ・いろいろなものを配る。 ・お年寄りを助ける。
---	---	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物分けてあげる。 ・手助け ・手伝い ・落ち着く ・自分より小さい子を守る。 ・「大丈夫ですか？」と声をかける。 <p>(高学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・励ます。 ・人がいないか確認する。 ・静かにする。 ・お年寄りを助ける。 ・協力する。 ・「おかしも」を守る。 ・何かを配る。 ・支援 ・支える。 ・避難所を知らない人に教える。 ・みんなで思いやる。 ・騒がない。 ・自分にできることを考える。 ・手伝う。 ・避難を呼びかける。 ・避難所にいる人を助ける。 ・まわりに知らせる。 ・食べ物・水を分ける。 ・みんなにご飯をあげる。 ・トイレから水を汲む。 ・非常食を食べる。 ・周りの危険なところを避ける。 ・食べ物を配る。 ・ほかの人と協力する。 ・避難所の手伝い。 ・天気予報を見る。 ・声かけ ・まわりに迷惑をかけない。 ・困っている人を助ける。 ・食事を出している人を助ける。 ・ボランティア ・ほかの人に知らせる。 ・避難所の手伝い
10	<p>避難訓練 (必要)</p> <p>*「いざという時のため」「もしもの時のため」に必要と考えている児童が圧倒的多数。</p>	<p>(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を守るため。 ・自分の命を守るため。 ・危ないから。 ・火が出た時のため。 ・人々が生きるため。 ・地震から守るため。 ・窓ガラスが割れるかもしれないから。 ・本当にあったら分からないから。 ・本当にあったら避難するから。 ・練習 ・ほかの人に教えられるから。 ・命がなくならないため ・本当にあつたとき、こわがらなくする。 ・本当にあつたとき、けがをするから。 <p>(中学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命(身)を守る。 ・大人になって必要。 ・役立つ。 ・訓練がなかったらパニックになる。 ・心が落ち着く。 ・死んじゃうから。 ・どうやって避難するか分からないから。 ・落ち着いて避難できるから。 ・本当に地震の時、素早くするため。 ・何があるか分からないから。 ・みんなと自分を守るため。 <p>(高学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷静 ・パニックにならない。 ・すらすらできる。 ・学びを生かす。 ・命(身)を守れる。 ・驚かない ・どうすればいいか学べる。 ・いい判断をするため。 ・死なない人を増やす。 ・備え ・役立つ ・大切 ・死にたくない。 ・素早く逃げる、避難するため。 ・すぐにできるから。 ・何が起こるか分からないから。 ・危険を知っておく。 ・困らない。 ・訓練だから ・どこに行けばいいか分かる。 ・落ち着いて行動するため。 ・慣れておくといいから。 ・どうしたらいいか分かる。 ・何も知らなかったら危ないから。 ・自分が生き延び、ほかの人に迷惑をかけないため。

②「必要ない」に関する記述

- ・家で教わっている。 ・授業が中断される。 ・その時考えること。

(4) 分析

(低学年)

- ・「おかしも」1年生…2割 2年生以上…学んでいるから半数以上は理解している。
- ・避難所の相談、非常食・水の準備少ない。家庭で準備をしていても、子供がわかっていない可能性もあり？

(中学年)

- ・10 避難訓練が必要…3年生40人 4年生47人回答
- ・いざというときに必要と考える児童は多い。一方で、3ダンゴムシ・9避難所でできること・12友達と話し合うは、3.4年生ともに半数に満たない。このことから、避難は必要と感じているが、自分で主体的に考え、行動に移そうとする児童が少ない。

(高学年)

- ・「おかしも」は9割以上が知っている。一方で正確に意味を理解せず訓練してきた児童も数名いる。
- ・避難所でできることがあると答えた児童は5割程度。「共助」の点からも、自分と周りに目を向ける意識をもたせる必要あり。「はい」と答えた児童の回答の幅は広く、具体的に書かれている。
- ・災害安全について話し合っている児童が8割ほど。理科や社会での学習経験も関係していると思われる。